

3月報(2024年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【祭壇】

ミカエル金神父

祭壇は、教会の頭であり中心であるキリストの神秘のしるしであります。それが生きた石（一ペトロ 2・4。エフェソ 2・20 参照）であるキリスト・イエスを、いっそうはっきりと、たえず表すから（ローマ・ミサ典礼書の総則 298）です。祭壇は、神の小羊のキリストが自分の司祭職を通して人間の救いと神と人間の和解を成し遂げるためにささげたいけにえを再現する食卓であります。

したがって、祭壇は、神と神の民との出会いが行われる中心になります。そして、聖変化がなされるところも祭壇です。このような意味で典礼行為の中で最も中心となるのは祭壇であり、キリスト者の人生と信仰生活においてその中心点となります。

歴史的に、キリスト者には自分たちの信仰生活の源泉となるミサ、すなわち感謝の祭儀を行うために集まる場所が必要でした。迫害の時代には信者の家に集まり、宗教の自由を得てから信徒の集いのための建物を建て始めました。それが聖堂です。聖堂はキリストを記念する感謝の祭儀を行うための空間だったので、当然祭壇が聖堂の中心になりました。教会は古くから今に至るまで祭壇に特別な尊敬を表わしてきました。

最初は木製の食卓のような形でしたが、徐々に石で作ってその品位を高めようとなりました。それは隅の親石（マタ 21・42）であるキリスト、命の水が湧き出る岩（出エ 17・6）であるキリストを明らかにするには、石の祭壇が適しており、恒久的な祭壇を望むようになったからです。ある事情で石の代わりに木で作った場合でも十字架が5つ刻まれた石板（聖石）を木製の祭壇の上に安置するなど、祭壇は非常に慎重に扱われてきました。今は地方の司教協議会が認めるのであれば他のふさわしい素材で作っても問題はないですが、原則としては自然石で作るように定められています（教会法 1236 条・ローマ・ミサ典礼書の総則 263～264）。

8世紀まで、祭壇の形はとても単純でした。しかし、殉教者の墓の上に聖堂を建てることによって、殉教者の遺物を祭壇と関連付けることになり、その形が多様になりました。祭壇に殉教者または聖人の遺物を収める慣習は 1596 年の教会法で定められていますが、今はその定め自体は

なくなりまして、無くても祭壇として使えます。しかし、殉教者または聖人の遺物を大事にする昔からの慣習を大事にするようにと定められています（教会法 1237 条）。



聖堂が感謝の祭儀を行うために建てられた建物であり、またその感謝の祭儀が行われる場が祭壇であるため、聖堂の中心はいつも祭壇であることがわかります。

しかし、歴史の中でも今のわたしたちの中でも祭壇そのもの自体よりはその周りの飾りに目を奪われてしまうことがあります。この四旬節の中で祭壇の飾りも素朴にするので、祭壇そのものに目をおいておく時期にするのに良い時ではありませんか。

福山教会の聖堂の祭壇は旧聖堂の祭壇をそのまま使っているときいています。祭壇の中には 1948 年 12 月 24 日に作られたと書かれていました。

60 年以上、皆様から大事にされてきた大切な祭壇です。木で作られたこの祭壇の上には聖石を入れるための溝も彫ってあります。

しかし今埋められている聖石は黒曜石のものと見られ、聖人の遺物が入っているかは少なくとも不明、個人的には石だけだと思われます。なぜなら聖石は丈夫な大理石で作られるのが一般的で、割れやすい黒曜石では作られている例はあまりないからです。そして、聖石には祝別されたときの証明書がありますが、今入っている聖石にはそれがないからです。そしてもっと残念なこともあります。それは祭壇の上板がひどく割れていることです。祭壇布で覆っていたから普段見えないのですが、とても悲しいことです。

しかし残念なことばかりではありません！香部屋の中にちゃんと証明書も保存されている聖石がありました！そして専門家に祭壇を見てもらいましたら、元々丈夫に作られたもので補強するとまだまだ使えるとの意見もいただいています！聖なる三日の間、祭壇を裸にします。この四旬節と聖週間のときにわたしたちの祭壇をしっかり見つめて、隅の親石であるキリスト、命の水が湧き出る岩であるキリストと霊的に出会うことと、わたしたちの聖堂、祭壇をもっと大事に思うきっかけにもしましょう。



【復活した「カレー倶楽部」】

梅田 理栄子

コロナがやっと落ち着き、今年のカエルフェスタにもやっと春が来ました。責任チームの中根さんより「カレーを作ることになったのでお手伝いお願いできますか？」と依頼がありました。100食も作るので、材料、作り方など、今まで作ったノウハウなどが手がかかります。そして、1番不安だったのがご飯炊きでした。元々カレーと言えば、教会での私達の地区の7ブロックが作るカレーは好評で、私は「河内さん秘伝のカレー」と呼んでいました。今では信者さんの高齢化、コロナの影響も重なり、いつしか7ブロックのカレー作りの活動は無くなってしまいました。



そして今年、カエルフェスタでカレーを作る機会が復活したのです。中根さんと私ではカレー作りは頼りないと判断した私は、石岡さんのサポートが必要であることを告げたのです。そして、中根さん、石岡さん（娘さんも参加）そして私、梅田の4人でカレー作りはスタートしました。野菜を切り終えた段階で、石岡さんとその娘さんは午後からは仕事先に行かなくてはなりません。残された私と中根さんは迷える子羊のように不安を抱えながら、カレーの煮炊きに突入いたしました。残された2人で、あの秘伝の味が再現できるのか不安が渦巻きました。途中、救世主のごとく色んな方が登場して助けて下さり、何とかカレールウを投入するところまで辿り着きました。「味は?」「あの秘伝の味になっているか?」「あの味に近づいているか?」味見をして「よしよし! 秘伝の味に近づいているぞ。」問題の白いご飯炊きですが、2回ともバッチリでした。



今回のカエルフェスタでは宮田マリベルさんチームのフィリピンのカレーも作られましたが、こちらもココナッツ風味で好評でした。2種類のカレーが食べられるのも良かったです。



ミカエルフェスタが終わり、お世辞を全く言わない母から「よくできたカレーだったね」と言われたので合格ラインは通過したのか、と思いました。

大量のカレー作りへのチャレンジを試みた中根さんに「ありがとう!」と秘伝のカレー作りに協力くださった石岡さんに「感謝!」そして、お手伝いいただいた皆さん、カレーを召し上がって下さった皆さんに感謝を込めて締めくくりたいと思います。

【ミカエルフェスタ】

宮田 和俊



2/11 曇り空の中ミカエルフェスタが開催されました。ここ数年コロナ禍ということもあり、人が集中しないように小規模な開催（分散開催など）して参りましたが、本年度は通常スタイルに戻し、フェスタと呼ぶにふさわしいものになりました。

出店については、カレー、フィリピンカレー、焼き鳥、イチゴ大福、クッキー、喫茶コーナー、持ち帰りコーナー、フィリピン料理、ベトナム料理、ゲームコーナーなど、多数の出店があり充実したものでした。

展示についても複数の展示があり、特に富田さんの展示かすごかった。福山の歴史など多数の展示があり、とても分かりやすく説明がしてあったのが印象的でした。

フィリピンダンスですが、いつもおなじみのフィリピンママ達の演舞でフィリピン伝統のダンス “pandanggo sa ilaw”（頭にランプを乗せるダンス）を披露していただきました。海外の文化を間近で見ることが出来てとても良かったです。それと、なんとと言っても圧巻だったのは、暁の星学園ギター・マンドリンクラブの演奏でした。休日にもかかわらず25名のメンバーと先生に来て頂き、4曲も披露してくださいました。聞くところによると、このクラブはとてもレベルが高く、その腕前は全国大会に進出する程だそうです。そんなレベルの高い演奏を間近で聞く事が出来てとても感謝しています。暁の星の皆さん、ありがとうございました。

それから、ミカエル神父様のお母様とお姉様がスペシャルゲストとしてお見えになりました。神父様のご家族が3人並んで座られて出し物を見ている姿を見ると、ミカエル神父様はこの家族の中で生まれたのだなど、微笑ましく感じました。



ビンゴゲームについては、最初、本当に盛り上がるのかな？と心配していましたが、始まってみると一転、皆さん大人から子どもまで大盛り上がりでした。景品が少なくなってきたら、持ち帰りコーナーから補充があったりして、最後まで期待感の途切れない感じで進行了ました。また、池田さんの司会進行もとても良かったと思います。とても楽しいひと時でした。

会計報告ですが、今回のフェスタの収益金額は¥150,637でした。収益金の内、¥50,000 をカリタス南相馬へ、¥50,000 を能登半島地震災害支援へ、残りの¥50,637 を福山教会へ献金しますので御了承下さい。

最後に、今回のミカエルフェスタは久々に通常開催で、我々スタッフも不慣れな事もあり、不備、不具合がある中、皆さんの協力を頂きなんとか完了することが出来ました。感謝致しますありがとうございました。また、駐車場を貸していただいた福山電業様、演奏に駆け付けていただいた暁の星ギター・マンドリンクラブの皆さん。本当にありがとうございました。



【ジメーナちゃんを救え】

宮田 和俊



昨年の11月、フィリピンのジメーナちゃんを救うため、福山教会にて募金をお願いした件で、病気の説明と経過報告をします。

ジメーナちゃんの病気は、先天性の腎臓の疾患で一般的に水腎症と呼ばれています。水腎症とは腎臓で作られた尿の流れがせき止められ、尿の通り道や腎臓に尿が溜まって膨張し、激しい痛みを発するという病気です。

まだ、一歳になったばかりのジメーナちゃんも排尿が円滑に行えず、ミルクを飲むたびに激しい痛みを発するため、常に寝たきりで痛みと闘っている状態でした。しかし、この度の皆さんの募金により、1回目の手術を行い右の腎臓から排尿出来るよう人工チューブを移植することに成功し、現在経過もよく、生まれて始めて自力で立ち上がるまで回復しました。

ただ、今後、もう一つの腎臓(左)は摘出しなければならぬそうです、ジメーナちゃんの体力を考慮し、数ヶ月後に施術する予定です。

この度の募金で一人の少女の命を救うことが出来ました。皆さんの善意のおかげです。本当にありがとうございました。



【ブラザー阿部のみ言葉の分かち合い】

『主よ、あなたがおいでになるところなら、どこへでも従って参ります。』

今日は、この言葉に心がけ留まりました。

この律法学者の心になって考えてみました。この律法学者は、単純に、素直な心で、この言葉をイエスに表したと思います。

わたしたちも、毎日の生活の中で、こんな単純な心でイエスに向かいたいですね。そして、その心を大切にしたいと思います。

イエスに従うことは、単純な事ですが、やはりそこには十字架の苦しみが伴います。「自分の十字架を取って私に従いなさい。」とわたしたちに示されたイエスの言葉は、わたしたちが、いつの日か御父の元で永遠の幸福を得るための道です。

わたしたちの十字架とは何でしょうか。わたしたちの弱さ、悪への傾き、人間関係の苦しみ、病の苦しみ。それらの苦しみは、イエスによっていつの日にかイエスのみ腕に抱かれる恵みに変えられることを信じましょう。

人は誰でも、自分の十字架は重く感じます。それは当然です。そんな時は、自分の回りにいる人たちの十字架を見つめましょう。そして彼らのために祈りましょう。その祈りによって、イエスは、わたしたちの背負う十字架を軽く感じさせて下さいます。

世界中で、重い十字架を背負って苦しんでいる人のために祈ります。イエスが彼らの苦しみに寄り添い、その荷を軽くして下さいますように。

【灰の水曜日】

求道者 K.K

2月14日(水)曇り空の午後、私は高知市での仕事を終え「午後7時のミサに間に合うだろうか？」と気にしていた。

私は洗礼を受けていない、所謂求道者だ。今年1月に教会の門を叩き、主日ミサに参加している。特に2月14日はバレンタインデーを忘れる程、初めての灰の水曜日を楽しみにしていた。

高知市から福山市までの4時間余を運転して、直線的な道では運転が単調になり、頭には次第に迷える子羊が増えていった。教会に通うようになったが、信仰に対する悩みは尽きなかった。



私の親は宗教に批判的だった。学生時代は親が設定した目標より、私の成績が下回ると、激しい口調で罵られることが多々あった。決まって最後にはこれが親の愛と言った。神様の愛と言われても、この学生時代の忌々しく対価を求められる愛の思い出が浮かんできた。

以前、友人が自殺をした。良き友人だった。そんな彼女は永遠に赦されない苦しみの中、過ごすのだろうか？神様の愛とは？脳内がもやもやとヒートアップして車のクーラーをつける程となった。私は休憩の為、来島海峡PAに寄り、なんとなく聖書を開いた、あてもなくパラパラとめくり適当に開いた頁

●ヨハネによる福音書●ローマ人への手紙

そこには「両親の罪は関係ない」「兄弟を裁くな」その文字がハッキリ見えた。自殺をした友人に対しては、まずは私の心が彼女を裁いてしまい、赦していないことに気付いた。

きっと、私が困ってイエス様に助けを求めたので聖霊の力で聖書を見せたのだと感じた。神様から愛を受けたことがないと思っていた私だが、神様は見返りを求めず、私にずっと手を差し伸ばしてくれていた、今日、私はもう救われていることに気付いた。

その時、来島海峡の曇天から一筋の光が現れた。明るくなった。きっと祝福していただけたのだと感じ、心が満たされていくのがわかった。

私は灰の水曜日の教会ミサに間に合った。そして、信仰を誓い、神様、イエス様、導いて頂いた聖霊様に心から深く賛美をした。

【天草・島原こころ旅】

匿名

天草・島原巡礼に行かれた当時を思い起こしながら俳句を詠まれたものです。

・有明の海に消えゆく月の雨

解説：島原に渡ろうとする。折悪しく小雨が降りだした。せつかくの名月も有明の海とともに雨にけぼらせ、ぼんやりと泣いているように見える。

・たどり読む「天草本」や小鳥来る

解説：修道会の方々が印刷機で印刷した「天草本」を皆が見ている。わたしも何が書かれているのだろうとガラス越しに目を凝らしてみる(多分多くの人もそうであろう)

・海嬴打つ子耶蘇名呼ばれて帰りけり

解説：路地で子どもたちが べいごま をして遊んでいる。この辺りは皆、キリスト教の家々が立ち並んでいる。ミカエル！と呼ばれた子どもはしぶしぶ帰って行った。

・野分浪船笛目指す聖母巖

解説：秋の暴風の中 さあ船出だ！このくらいの風マリア様がきっと護ってくださる。銅鑼音が風を切って聞こえる。

・身に入むや秘仏たのみの隠れ里

解説：仏教に似せて判らないように信心した。踏絵もされた崎津教会、ほんの近くには神社がある 人知れず祈った人達のところに秋の冷えがしみじみと伝わってくる。



・南蛮船入りし口之津雁渡る

解説：口之津には、むかし南蛮船が出入りしそれなりに栄えたであろう。しかし南方へ出稼ぎに行った「からゆきさん」という言葉を思い出す。

・耶蘇名もつ大名墓や草の花

解説：島原半島には有馬晴信らの墓がある。名も知れぬ草が弔うように紫や青の小さな花をひっそりと咲かせている。

・耶蘇一揆談合の島曼殊沙華

解説：一揆の談合の島には今もここに火を燃やさんと曼殊沙華が赤い炎のような花を咲かせている。

・百舌啼くや朱欒一樹の武家屋敷

解説：今でも武家屋敷が当時のまま残されている。垣根から大きな朱欒が顔をのぞかせて人も小鳥も呼び寄せている。

・一揆三万眠る古城址地虫鳴く

解説：約二満数千人の一揆衆が籠城の末、援軍もないまま この地で亡くなる。地中で悲しんで虫が鳴いているように感じる。(地中の虫の幼虫は鳴かない)

【南相馬便り 6】2024年2月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子



辰年ということで、1月号で昇り龍のお話が、大蛇伝説に脱線したからでしょうか？元旦早々に大変なことになりました。能登半島の大地震と津波、大火災。日本海側の人々には本当に心からのお見舞いとお祈りを届けたいと思います。カリタス南相馬も何とか皆様のお力になりたいと、備蓄している物資をお届けするよう早速動きましたが、余震が続いていたことと、なかなか交通の回復がままならないことで、大変心苦しい思いをいたしました。ボランティアベースの立ち上げに協力。

(「梅に鶯」私作のパステル画：写真に光が入ってしまいました)

地震発生のニュースを聞いた時の私の反応は、あの地域にはたくさん原発があるはず！！私が覚えているだけでも、大飯原発、敦賀原発、柏崎刈羽原発・・・原発は大丈夫だろうか？というのが第一反応でした。

調べてみると、石川県、福井県、新潟県で6原発があります。石川県に志賀原発（北陸電力）、福井県に、敦賀原発（日本原子力発電）、美浜原発（関西電力）、大飯原発（関西電力）、高浜原発（関西電力）、新潟県に、柏崎刈羽原発（東京電力）：7基も抱えている日本で一番大きく、出力は世界最大級とのこと。原発に事故があったら、浜通りの二の舞になるので、それだけは勘弁してくださいと心で祈っていました。幸いなことに、すべての原発はコントロールされていて無事だったので胸をなでおろしました。

被災された方々の一日も早い平穏な日常が回復されますようにと祈ります。

カリタス南相馬の今年度のキャッチフレーズについて、東京教区 NEWS で幸田司教様が紹介していただきましたが、読むことのできない方もあるでしょうから、ここに少し紹介します。……の部分は省略です。（カリタス南相馬の Facebook に全文が掲載されています。）

「見さ来う南相馬！」

『見さ来う南相馬！』というのは、2024年のカリタス南相馬のキャッチフレーズです。

『みさこう』と読みますが、浜通りの言葉で『見においで』という意味です。

カリタス南相馬の前身であるカリタス原町ベースは、全国から東日本大震災被災地に来るボランティアの方々に宿と食事を提供するために始まりました。その後、ボランティアだけでなく、特に原発事故の被災地の現状を知りたいという方々の案内をするのも、私たちの重要なミッションと考えるようになりました。……福島原発事故は過去のことではありません。今も福島第一原発には大量のデブリが残ったままで、その処理や廃炉の目処はたっていません。一方で周辺地域の状況は年とともに変わってきています。ALPS 処理水の海洋放出の問題、除染によって出た除去土壌の再利用の問題は決して福島だけの問題ではありません。政府が原発の再稼働や増設・新設に向けて動き始めた今だからこそ、原発事故の影響が今もどのように続いているか、あの震災と事故から学ぶべきことは何なのか、自分の目で見て考えることが大切だと感じています。……

福島は自然との関係やわたしたちの生活を見つめなおす回心の地でもあると言えます。

東京駅から南相馬市原ノ町駅まで、常磐線特急で約三時間半。どうぞ皆さま、『見さ来う南相馬』、南相馬を見に来てください！」

カリタス南相馬に来られる時には、車窓から特に海側の景色に注意をして見られることをお勧めします。いわきから竜田までの景色と富岡駅から原ノ町駅までの景色が違ってくるのを感じられると思います。特急だと、あっという間に通り過ぎてしまうのですが、特急も富岡からは各駅停車なので、よく注意して見ていただければいいかと思います。駅周辺は開発が進んでき

れいに整備されたように見えますが、中心部を過ぎると、まだまだ草ぼうぼうの空地が目立ってきます。ボランティアに来られるとしても、1日は原発被災地の視察を予定に入れていただければ幸いです。

政府が原発の再稼働や、稼働年数の延長を推進している今日だからこそ、原発被災地の復興がどれほど大変なことかということも知っていただきたいと思います。

岸田総理は、総理大臣になった時、被爆地広島出身の総理として、核軍縮については前向きに検討していくというような意味の発言をされて、脱原発への期待を抱いていたのですが、いつのころからか原発についても、核軍縮についても、核の傘下にあるアメリカへの追従の発言が濃くなって来て、私の期待はしぼんでしまいました。



この記事は、「霞む最終処分：処理水は語る」というテーマで、昨年12月1日からの福島民報に連載された記事の一部です。

読んでみると、政府の杜撰なやり方にあきれて、怒りさえ覚えます。

4月ごろの便りで処理水の問題を現場の方の声などについて触れようと思っていますが、政府の検討委員会の座長があきれるほど、海洋放出の結論ありきで、会議は名目上開かれたにすぎないと感じられるような記事です。そして現場の漁業者の理解なしに決して放出を実行はしないと約束しながら、全漁連も県の漁業組合も最後まで反対を表明していたにもかかわらず、強硬に海洋放出を推し進めて実行してしまいました。

国民の声は無視されて、民主主義の日本はどこに向かっていくのでしょうか？

大変重い問題で、私の小さな頭と心に納めきれません。ただ、子どもたちの将来の生活に大きな不都合が出ませんように！既に環境汚染が深刻な世界です。神様のみ心に祈りで訴えるのみ！！

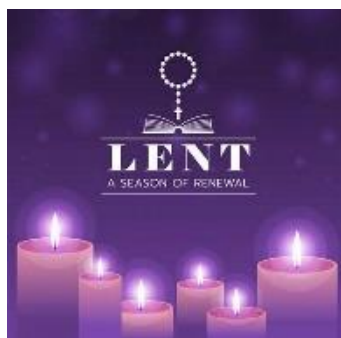
【帰天のお知らせ】

ペトロ 山口 恵様 (59歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【3月・4月の行事予定】

3月		4月	
17(日)	四旬節黙想会	7(日)	復活節第2主日 (神のいつくしみの主日) 初聖体
20(水)	聖ヨセフ星野倫淳助祭司祭叙階式		
24(日)	受難の主日	8(月)	神のお告げ
27(水)	聖香油ミサ	14(日)	復活節第3主日
28(木)	聖木曜日(主の晩餐)	21(日)	復活節第4主日 世界召命祈願の日
29(金)	聖金曜日(主の受難)	28(日)	復活節第5主日 14時 墓地ミサ(雨天の場合 5/5)
30(土)	聖土曜日(復活徹夜祭)		
31(日)	復活の主日		



【編集後記】

ミカエルフェスタが戻って来た。ミサの中での奉仕やミサに何らかの事情で与れない方々への聖体奉仕の訪問も再開された。涙ながら「ご聖体を頂き、すっきりした」との言葉に癒しの力を感じた。日常が戻りつつあるのは嬉しい。喜びの中にも、衰えない感染症の隠れた力。ロシアのウクライナ侵攻から2年。ガザも含めて、終戦の見通しは依然不透明。…四旬節。祈りと回心が要る。十字架の道行きも始まった。喜怒哀楽が混在する日常で、無力だが、祈りを続けて行きたい。(N.T.)